

だいせん次の一歩へ

大山寺地区上質化プロジェクト News vol.1

大山寺地区ってどこ？

鳥取県大山町にある大山寺地区は、「大山隠岐国立公園」のシンボルである「大山」の北麓に位置します。日本海から大山山頂まで続く大山町は、海拔0mから1729mまで、海と山の双方の恵みをたっぷりいただいた自然豊かな町です。特に大山寺地区は、「国立公園大山」の玄関口として、大山に残

る手付かすの自然や遺された史跡の数々、独自の文化風習が残り、大山町ひいては鳥取県の貴重な財産の一つです。多くの人々を魅了し続ける大山は、2018年に伯耆の国大山開山1300年の節目の年を迎え、第3回山の日記念全国大会の会場となるなど大いに盛り上がりを見せました。大山寺地区

は、大山観光の拠点として大きな役割を担っています。



上質化プロジェクトってなに？

2016年3月「明日の日本を支える観光ビジョン」が政府によってとりまとめられ、訪日外国人旅行者数を2020年までに4000万人とすることが新たな目標として掲げられました。環境省では、日本の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてのブランド化

を図ることを目標に、8つの国立公園を選定し、先行的、集中的に取り組み（国立公園満喫プロジェクト）を実施することが決定しました。その8つの内の1つに、大山隠岐国立公園が選定され、多くの方々の協力のもと大山では様々な取り組みが行われてきました。この満喫プ

ロジェクトは、2020年でひとつの事業として終わりを迎えますが、より多くの人々に大山を楽しんでいただくために、より利便性・満足度が高い大山になるために、絶え間ない取り組みが必要です。魅力ある大山であるにはどうしたらいいのか。民間事業者・国・地方公共団体で構成する協議会を設立し、一丸となって次の大山寺地区の方向性を検討し、整備を推進します。国立公園大山の利用拠点である大山寺地区の上質な滞在環境の整備を図るため、自然環境等を活かした街なみ整備に向けて取り組みます。この取り組みが、大山寺地区上質化プロジェクトです。



ワークショップで意見交換

上質化プロジェクトの事業内容

大山寺地区上質化プロジェクトは、環境省の国立公園利用滞在拠点等上質化事業（以下、「上質化事業」）を活用して行っています。上質化事業は、上質な滞在環境の創出とインバウンドの誘客促進のため、国立公園利用者向けの施設の整備や改善等を行うものです。初年度である令和元年度は、同時一体的に整備を行うために、利用拠点計

画の策定を行います。利用拠点計画の策定には、まず民間事業者・国・地方公共団体で構成する協議会を設立して、次の大山寺地区の整備方針を定めるために、何を目指していくのか、何が課題なのか、何を整備するべきか議論しています。令和2年度からは、定めた整備方針に沿った具体的な整備を実施するよう計画の策定を進めます。

上質化事業の対象範囲である大山寺地区で事業を行われる事業者が下記の事業を行う場合、整備に必要な経費の1/2の補助を受けることができます。（※補助には詳細な要件があります。）

- ・ 廃屋の撤去：跡地への新たな民間事業者の導入を前提とする廃屋等の撤去
- ・ インバウンド機能向上：広く国立公園利用者に関わった施設の多言語サイン、トイレ洋式化、Wi-Fi環境整備
- ・ 文化的魅力の活用：魅力的なまちなみとなるための施設の建築外観、外構、建設設備等の修景

これまでの取り組み

大山寺地区上質化プロジェクトは、2019年9月に協議会を設立し、一丸となって大山寺地区の上質化に取り組むことを確認しました。11月にはフィールドワークとワークショップを実施しました。フィールドワークでは、協議会メンバーが大山寺地区内を歩き回り、来訪者目線で、改善や工夫が必要なところについて意見を出し合い、ワークショップでは、その課題の共有と解決のための対策などについて意見交換を重ねました。

12月の協議会では、それまでの調査結果を元に、今後の整備方針を検討しました。方針としては、大山の豊かな自然を活かしたアウトドア・アクティビティの充実、大山寺の歴史や文化資産を活かした滞在拠点としての整備、来訪者がストレスを感じることなく満喫できる環境整備などを確認しました。これまでの協議会での検討を踏まえ、今年2月に大山寺地区の整備方針を固め、利用拠点計画の策定に向けて取り組んでいきます。

次回

大山寺地区の整備方針を公開

事業の相談・問い合わせは下記まで

大山町役場 大山支所 観光課

〒689-3332 鳥取県西伯郡大山町末長500番地

TEL：0859-53-3110 FAX：0859-53-3163 E-MAIL：kankou@daisen.jp

【フィールドワークでの意見】

- ・ 廃屋や空き店舗、老朽化した建物や施設の外観が景観を損なっている。
- ・ 施設の管理不足が寂れた印象を受ける。
- ・ 目的物へのルート誘導など来訪者が欲しい情報が分かりづらい。
- ・ ハブとなる駐車場の容量と情報不足。
- ・ 絶景ポイントを活かせていない。人が溜まれるスペースが少ない。

など



フィールドワークで現地を確認